

IV 看護学部

1. 概要

医療・看護を取り巻く環境は、少子高齢化の進展、医療技術の高度化・専門化、地域包括ケアシステムの体制整備に伴う医療提供の場の多様化等により大きく変化してきており、看護職には、より質の高い医療や保健福祉サービスの担い手として、県民から大きな期待が寄せられている。こうした多様なニーズに対応するため、十分な専門的知識や技術はもとより、多くの職種と協働する力や、医療施設や在宅などあらゆる場面で看護を実践する力、広い視野と豊かな人間性を兼ね備えた看護職を育成する必要があるものと考えられる。

また、近年、4年制看護大学への進学者数が増加していることや、今後、18歳人口が減少していくことなど、特に、看護系の高等教育を取り巻く環境は急速に変化してきている。前述のとおり、今後、本県においても、より質の高い看護職の需要が一層高まる中、本県高校生の県内唯一の看護大学への進学は、看護大学進学者のうちの3割程度にとどまっている。毎年70名程度の県内高校生が、県外の看護大学に進学している状況にあるなど、本県の看護職を志望する高校生の進学先の選択の幅や学修機会の確保などへの対応が課題となっている。

こうした中、富山県では、平成27年3月に医療・教育分野の有識者等からなる「富山県看護系高等教育機関整備検討委員会」を設置し、県内の看護系高等教育機関の整備・充実について多角的に検討が行われたところ、同年8月、入学定員100名の富山県立総合衛生学院に代わって、できるだけ早期に、新たに富山県立大学に入学定員120名の看護学部を設置することが望ましいとの結論に達し、富山県知事あての提言がなされたところである。

以上のような社会情勢を踏まえ、地域の看護職需要を確保しながら、より質の高い看護職の育成や県内高校生の動向を踏まえた進学先の確保など、地域的な課題やニーズ、要請等に対応するために、平成31年4月に看護学部看護学科を開設したものである。

(教育理念)

富山県立大学看護学部では、幅広い教養と人々への共感的態度を備えた人間性豊かな人材、そして創造力、実践力及び探究心を兼ね備え、多職種と協働しながら地域や社会に貢献できる人材を育成する。

(ディプロマポリシー)

- 1 人間・社会・文化・自然について広い視野と深い洞察力を有し、専門職としての社会的責任を理解している
- 2 社会人として必要な基礎能力（コミュニケーション能力、情報活用力、言語能力、キャリア形成力）を有している
- 3 人に対する深い理解と倫理観を持ち、多様な価値観を尊重した対人関係を築く能力を有している

- 4 看護学の基本となる知識を有し、物事を多様な観点から考察する力（クリティカル・シンキング）や創造的思考力により、課題対応能力を有している
- 5 あらゆる健康段階にある人々に、多職種と連携・協働し、地域特性に応じた看護を実践する能力を有している
- 6 生涯にわたって自己研鑽し、国際的視野を持ちながら専門性を発展させていく基本姿勢や研究活動の基盤となる能力を備えている

表2. 21 2020年度看護学部看護学科入学生卒業要件単位

〈卒業要件〉

区 分			卒業要件単位数	
			必修科目	選択科目
教養科目	人間の理解	社会・環境		2単位以上
		言語・文化	1単位以上	2単位以上
		精神・身体	3単位以上	2単位以上
	自然・情報		3単位以上	2単位以上
	外国語			4単位以上
	教養科目合計		25単位以上	
専門基礎科目			27単位	
専門科目			72単位	2単位以上
合 計			126単位以上	

2. 教育の特色

(1) 少人数によるきめ細やかな教育

4年間を通じて少人数によるグループ学修や演習を多く取り入れ、一人ひとりの学生にきめ細やかな教育を行うことによって、基礎学力の向上や人間力・実践力・創造力を培うことを目指している。1年次～2年次に開講する‘トピックゼミⅠ～Ⅳ’、3年次～4年次に開講する‘看護研究’では、看護学専任教員が少人数の学生を受け持ち、各学生の個性を把握しながら、学生の学修支援やサポートを行っている。

(2) 主体的・継続的な学習を支援

学生が主体的・継続的な学習を行えるように、基礎から専門、統合と各看護学領域における連続性を重視したカリキュラム内容としている。また、講義や演習には、学生が主体的に考え、学生同士や教員と相互に意見を交わしながら学びを深めていけるよう、グループ学修を多く取り入れ、課題レポートの作成や発表、討論等を組み込んでいる。さらに、キャンパス内のICT環境を整備し、看護学実習室には最新版シミュレーション機器等を取り揃えている。授業に支障のない範囲で各看護学実習室を開放するなど、学生の「自ら学ぶ」を積極的に支援し、看護学への関心や創造力、看護実践力、及び自己洞察能力を培う。

(3) 高い看護実践力を培うための教育

① 看護学へのユマニチュードの導入

ユマニチュード® (Humanitude®) とは、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいた、フランス発祥のケア技法の一つである。人間科学に基づいたヒューマンケアである看護に、高いコミュニケーション能力に基づくユマニチュードの技法を取り込み、学内での講義・演習を実習に連動させて、4年間を通して高い看護ケア能力を育成している。

② 工学の専門家や医師らとのオムニバスによる科目設定

専門基礎科目に「安全と快適を支援する看護学・工学連携」科目を設け、広く公共の安全、健康、福祉を向上させるための技術やシステム、効率性・機能性といった工学的視点について探求し、対象者の特性に応じた安全・快適さを提供する人に優しい看護を学修する。生活の質を高める観点から飛躍的に発展している医療・介護ロボットや、人々の健康を維持・増進させるためのICT活用、また、がん医療や救命救急医療における先端医療とそれらに関わる医療チームの実際から、先端医療における看護の役割について探求する能力を高めることを目指している。

③ 様々な施設のバックアップを得た県内全域における実習

先端医療を提供する富山県立中央病院をはじめとする複数の公的病院や訪問看護ステーション、様々な保健医療福祉施設など県内全域を実習の場として活用し、地域に密着した実習を行っている。看護の対象者や関係職種の人々との直接的な関わりを通して、必要な知識・技術・態度を身に付ける。また、対象者のみならず家族の意向や家族が持つ力をアセスメントし、地域包括ケアの視点を持って社会資源を活用する等、地域に根差した看護を展開する実践力を養う。

(4) 看護学教育及び看護活動を通じた地域貢献

1年次生を対象に‘初期体験実習’を開講し、保健・医療・福祉の現場に出向くことで、看護の対象となる人々の健康生活について直接学ぶことができる機会を設け、初年次から地域における健康課題に関心を持てるようになることを目指している。‘初期体験実習’に続く‘トピックゼミⅡ～Ⅳ’では、健康課題にかかわるテーマを掘り下げていく学修とし、地域の人々との対話などを通じて地域の課題を学ぶとともに、その課題を科学的に考察する力やコミュニケーション力の向上、地域貢献する態度を養う。

3. 各講座の概要

(1) 基礎看護学

看護の対象は、新生児（胎児）から高齢者までのあらゆるライフステージにある人々であり、どのような健康状態であっても、専門性を活かして看護を実践する責任がある。そのため、看護の構成概念である「看護・人間・健康・環境」の理解を深めると共に、倫理

的な側面にも配慮した看護を実践する能力を高めることが必要となる。また、人々に提供する看護ケア技術は、理論と実践から構成され、根拠となる最新の知見を基に、人々の「安全・安楽・自立」を重視している。本講座では、これらに焦点を当て、看護の専門性とは何かを問いつつ、看護ケアが人々や看護師に与える心身への影響について教育研究を行う。

(2) 成人看護学（急性期）

成人期にある人々の特徴をライフサイクルから捉え、心身機能、発達課題、家庭や社会の役割から健康障害や治療に伴う人間の反応を理解することは重要である。

急性・回復期の看護では、成人期にある人の周手術期における、生命、精神・心理的、社会的危機を踏まえた包括的なアセスメントの視点と援助方法、そして、生命の危機的状況から回復・社会復帰していくプロセスに必要な、具体的な看護と理論について、理解を深める必要がある。本講座では、これらに焦点を当て、手術を受ける患者とその家族の看護に関する課題に対して教育研究を行う。

(3) 成人看護学（慢性期）

成人期にある人々の特徴をライフサイクルから捉え、心身機能、発達課題、家庭や社会の役割から健康障害や治療に伴う人間の反応を理解することは重要である。

成人期に慢性疾患を有し、生涯にわたって生活のコントロールが必要な人とその家族が、その人らしい社会生活を送ることや、緩和ケアを必要としている健康障がいを持つ人と、その家族ができる限り良好なQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を実現することは大切である。本講座では慢性・緩和期にある人の看護では、慢性疾患の病態・疾患・治療を踏まえた具体的な看護援助方法と、対象者の個性や尊厳を踏まえた看護について、理解が深められるように教育研究を行う。

(4) 老年看護学

高齢者への看護を展開するには、その人らしさを尊重することを基本とし、加齢や病気に伴う心身の変化に対応しながら暮らす高齢者自身を理解することが重要である。また、高齢者自身を深く理解するには、歴史的背景や個人の生活史を含めた高齢者の全体像を捉える必要があり、高齢者が有する力を引き出すコミュニケーション技術やアセスメントの視点、生活援助に関する理論等の知識が必要である。本講座では、高齢者の健康生活を支える看護の理論と実践に焦点を当てながら、身体拘束や認知症看護などの今日的課題についての検討や対策にも踏み込んだ教育研究を行う。

(5) 小児看護学

小児看護の対象は小児と家族であり、社会の変化の中で小児と家族が抱える健康課題を捉えて看護を行うことが求められる。そのため、小児看護学では、子どもの権利、子どもの身体的・心理的・社会的特徴、成長・発達の特徴、子どもと家族の健康を支える社会資源や制度などについての学修に重点を置く。また、子どもとの関わりを通して、成長発達に応じた日常生活の援助と集団生活における感染防止や、事故防止のための環境調整につ

いての理解を深めることも重要である。本講座では、子どもの成長発達と援助をはじめ、病気・障がいをもつ子どもと家族の看護の在り方について教育研究を行う。

(6) 母性看護学

母性看護学では、母性及び母性看護学の基本的概念や、倫理的課題にアプローチする方法、看護実践の基盤となる理論とウイメンズヘルスなど、ライフサイクルにおける女性の健康課題について焦点を当てる。これらによって、母性看護の意義と役割、及び社会の変化に応じた母性看護の在り方について思考する能力を養うことを目指す。また、マタニティサイクルにある妊産褥婦と胎児、および新生児の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントし、家族機能・家族役割の変化と必要な看護援助について、理解を深める。本講座では、これら母性看護学に関わる様々な課題に対する教育研究を行う。

(7) 精神看護学

精神的健康を「身体的」「精神的、霊的（スピリチュアル）」「社会的」な視点から捉え、障害も生活を構成する一部であることへの理解は、重要である。精神看護学では、人間の成長発達やライフイベントに伴うストレスが精神的健康に及ぼす影響や、危機に対する反応とプロセスについて修得し、人間のこころと行動について理解を深める。また、精神医療の歴史の変遷や日本における法制度の変遷と現状の課題、その対策について講義、演習、実習を通して学び、精神的健康の保持・増進のための、知識、技術を得るための教育研究を行う。

(8) 在宅看護学

近年の在宅医療が必要とされる社会的背景を踏まえ、在宅看護の概念や目的、機能を理解することは重要である。在宅看護学では、①在宅で生活する対象と活動の場、看護活動の特性、②地域包括ケアシステムの観点から在宅看護を取り巻く制度、③退院支援から在宅療養生活の支援に関する多職種との協働・連携の重要性、④在宅看護における権利保障とリスクマネジメントの必要性などについての理解を深める。それらを踏まえ、講義、演習、実習を通して、在宅看護に必要な知識と支援技術について教育研究を行う。

(9) 地域看護学

地域看護は、地域で展開される看護実践の総称であり、様々な看護学領域の知識が必要とされ、また地域で生活する様々な健康レベルの人々を対象とするため、課題も多様である。地域看護学では、その課題対応のために、地域看護学の理念や歴史、地域看護活動を理解するための理論等の学修や、地域看護における、予防の視点からの、個人・家族・集団や地域全体の健康状態のアセスメント技術を学修する。さらに課題解決のための各種機関との連携・調整、保健・福祉・医療計画策定や組織作りなどの独特な活動展開や、活動の主な場である行政機関、産業、学校、地域包括支援センター等での具体的な実践技術について、教育研究を行う。

表2. 22 教育課程表（看護学部看護学科）2020年度入学生用

区分	授 業 科 目		配当 年次	学期	単位数		卒業要件単位	
					必修	選択		
専 門 基 礎 科 目	の 精神 身 人 間的 体的 理 解 的 側 面	形態機能学Ⅰ（解剖生理学）	1	前期	2		必修 27 単位	
		形態機能学Ⅱ（解剖生理学）	1	前期	2			
		形態機能学Ⅲ（生化学）	1	後期	1			
		生涯発達心理学	1	後期	2			
		生体と放射線学	2	後期	1			
	疾 病 と 回 復 課 程	病理学	1	後期	1			
		感染と防御	1	後期	1			
		薬理学	2	前期	2			
		成人臨床医学Ⅰ（外科系）	2	前期	1			
		成人臨床医学Ⅱ（内科系）	2	前期	1			
		老年臨床医学	2	前期	1			
		小児臨床医学	2	前期	1			
		母性臨床医学	2	前期	1			
		精神臨床医学	2	前期	1			
	栄養学	2	後期	2				
	社 会 保 障 制 度	健康支援と 保健医療福祉行政論	2	前期	1			
		公衆衛生学	2	後期	1			
		地域ケアシステム論	2	後期	1			
	学 支 安 ・ 援 全 工 学 と 快 連 携 する 適 看護 を	看護ケアと工学	2	前期	2			
生活支援と情報		2	後期	1				
先端医療論		2	後期	1				
専 門 科 目	キ ャ リ ア 形 成	トピックゼミⅠ	1	前期	1		必修 72 単位	
		トピックゼミⅡ	1	後期	1			
		トピックゼミⅢ	2	前期	1			
		トピックゼミⅣ	2	後期	1			
		初期体験実習	1	前期	1			
	専 門 分 野 Ⅰ	基 礎 看 護 学	看護学概論	1	前期	2		
			基本看護技術	1	前期	1		
			生活援助看護技術	1	後期	2		
			フィジカルアセスメント	1	後期	1		
			看護過程論	2	前期	1		
			診療援助看護技術	2	前期	2		
			看護倫理学	3	前期	1		
			基礎看護学実習Ⅰ	1	後期	1		
			基礎看護学実習Ⅱ	2	後期	2		
	専 門 分 野 Ⅱ	成 人 看 護 学	成人看護学概論	2	前期	1		
			成人看護方法論Ⅰ（急性・回復）	2	後期	1		
			成人看護方法論Ⅱ（慢性）	2	後期	1		
			成人看護方法論Ⅲ（緩和）	3	前期	1		
			成人看護学演習Ⅰ（急性・回復）	3	前期	1		
			成人看護学演習Ⅱ（慢性・緩和）	3	前期	1		
成人看護学実習Ⅰ（急性・回復）			3	後期	3			
成人看護学実習Ⅱ（慢性・緩和）			3	後期	3			

区分	授業科目	配当年次	学期	単位数		卒業要件単位
				必修	選択	
専門科目	老年看護学	老年看護学概論	2	前期	1	
		老年看護学方法論	2	後期	1	
		老年看護学演習	3	前期	1	
		老年看護学実習Ⅰ	3	前期	2	
		老年看護学実習Ⅱ	3	後期	2	
	小児看護学	小児看護学概論	2	前期	1	
		小児看護学方法論	2	後期	1	
		小児看護学演習	3	前期	1	
		小児看護学実習Ⅰ	3	前期	1	
		小児看護学実習Ⅱ	3	後期	1	
	母性看護学	母性看護学概論	2	前期	1	
		母性看護学方法論	2	後期	1	
		母性看護学演習	3	前期	1	
		母性看護学実習	3	後期	2	
	精神看護学	精神看護学概論	2	前期	1	
		精神看護学方法論	2	後期	1	
		精神看護学演習	3	前期	1	
		精神看護学実習	3・4	3後・4前	2	
	在宅看護学	在宅看護学概論	2	前期	1	
		在宅看護学方法論	2	後期	1	
		在宅看護学演習	3	前期	1	
		在宅看護学実習	3・4	3後・4前	2	
	地域看護学	地域看護学概論	2	後期	1	
		地域看護学方法論	2	後期	1	
		地域看護学演習	3	前期	1	
		地域看護学実習	4	前期	1	
	統合分野	看護教育学	4	前期	1	
		看護管理学	4	前期	1	
多職種連携論		4	前期	1		
国際看護活動論		4	後期	1		
災害看護学		4	後期		1	
救命救急看護学		4	後期		1	
感染看護学		4	後期		1	
認知症看護論		4	後期		1	
糖尿病看護論		4	後期		1	
看護学研究Ⅰ		3	前期	1		
看護学研究Ⅱ		4	通年	2		
看護ケアとユマニチュードⅠ		1	前期	1		
看護ケアとユマニチュードⅡ		2	前期	1		
看護ケアとユマニチュードⅢ	3	前期	1			
看護ケアとユマニチュードⅣ	4	前期	1			

選択2単位以上

表2. 23 カリキュラムマップ

